

八木巻神楽保存会 (岩手県花巻市)



出演日時：11/1 13:10～ 演目：五穀舞

八木巻神楽が伝承されている八木巻地区は、大迫の中心部から東南に約10 kmのところに位置します。永禄7(1564)年に熊野大権現^{かんじょう}を勧請した際に始められた神楽であると伝えられていますが、寛永19年(1642)年の大飢饉の後127年間活動が休止し、その後も2回ほど休止しました。昭和7年(1932)年に熊野大権現を八雲神社と改め、旭の又神楽の指導によって神楽も復興し、現在に至っています。昭和51年に大迫町指定無形文化財（花巻市指定無形民俗文化財）指定、令和2年4月に岩手県無形民俗文化財に指定されました。

演目は、農業の始まりと五穀の由来を説く五穀舞です。八木巻神楽の五穀舞は、天熊人命がねりを踊り、天照大神に五穀を献上します。献上された天照大神は、大いに喜び、これを人々の食料となす事を決め、天狭田彦命^{あめのさだひこのみこと}と天長田彦命^{あめのながたひこのみこと}に命じて、田や畑に植えさせました。これが農業の始まりであり、保食神は稲荷大明神として五穀を守護する神に祀られたというお話です。